

「12使徒の選抜 - ペテロ-」

§ 053 マコ 3 : 13~19、ルカ 6 : 12~16

1. はじめに

(1) 宣教の拡大のために、使徒たちを選抜し、彼らを各地に派遣する段階になった。

- ①弟子とは、師から学ぶ者。権威の付与はない。
- ②使徒とは、遣わされた者。遣わす者から権威が与えられている。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

(§ 53) 徹夜の祈りの後、イエスは12使徒を選ぶ。

マコ 3 : 13~19、ルカ 6 : 12~16

(3) 12使徒のリストは、4ヶ所に出て来る。

- ①マコ 3章、マタ 10章、ルカ 6章、使 1章
- ②同名の者、別名を持つ者などがいて、非常に難解である。

(4) 使徒たちのリストを理解するためのヒント

- ①4人一組である。
- ②ペテロは常に最初に出て来る。
- ③ピリポ (5番目)、ヤコブ (9番目) は、必ず同じ位置に出て来る (リーダー)。
- ④1組目の3人 (ペテロ、ヤコブ、ヨハネ) は、特にイエスに近い位置にある。
- ⑤兄弟たちが3組いた。

*ペテロとアンデレ

*ヤコブとヨハネ

*アルパヨの子ヤコブと、イスカリオテのユダでない方のユダ

<12使徒の歌 (ルカ 6 : 14~16) >

- 1. イエスの使徒たち12人、彼らは全員20代、
1組4人で活動し、御国の福音伝えます。
- 2. ペテロが最初の長 (おさ) となり、弟アンデレそこに付き、
ヤコブとヨハネの兄弟も、御国のために仕えます。
- 3. ピリポの組の者たちは、バルトロ、別名ナタナエル、
マタイ、もとは取税人、トマス、あだ名がデドモ (双子) です。

4. ヤコブの父はアルパヨで、シモンの前歴熱心党、
別名タダイのユダがいて、裏切り者のユダ最後。

4. アウトライン

- (1) イエスに出会う前の状態
- (2) パートタイムの弟子となる。
- (3) フルタイムの弟子となる。
- (4) 使徒として召される。
- (5) 復活の目撃者となる。

5. メッセージのゴール：ペテロの人生から学ぶ

このメッセージは、ペテロの人生から教訓を学ぼうとするものである。

I. イエスに出会う前の状態

- (1) シモンが元の名前である。
 - ①「ヨナの子シモン」(バルヨナ・シモン)
 - ②イエスによってペテロ(岩)という名が与えられた。
 - ③アンデレは、彼の弟である。
- (2) 職業は漁師である。
 - ①ガリラヤ湖の北方の町ベツサイダ出身
 - ②湖畔の町カペナウムに移り住んでいた。
 - ③結婚していた。
- (3) バプテスマのヨハネの弟子であった。
 - ①弟のアンデレとともに、メシアの到来を待ち望んでいた。
 - ②彼らは、当時の「イスラエルの残れる者(レムナント)」であった。

II. パートタイムの弟子となる。

- (1) 弟のアンデレがペテロをイエスに紹介した。
 - ①この時、ケパ(訳すとペテロ)という名が与えられた。
 - ②この時から、ペテロはイエスの弟子となる。

- (2) イエスの活動を目撃した。
- ①カナの婚礼の奇跡
 - ②過越の祭りでの宮清め
 - ③ニコデモとの対話
 - ④サマリヤの女との対話
 - ⑤カペナウムの役人の息子の癒し
 - ⑥ナザレでの伝道の失敗
 - ⑦カペナウムへの移動
 - ⑧大漁の奇跡を経験し、フルタイムの弟子として召される。

Ⅲ. フルタイムの弟子となる

- (1) イエスの活動を目撃した。
- ①安息日に、カペナウムの会堂で悪霊を追い出す。
 - ②姑の熱病の癒し
 - ③ガリラヤ伝道を展開する。
 - ④ツァラアト患者の癒し
 - ⑤中風の人癒し
 - ⑥マタイの召命
 - ⑦パリサイ人との論争の激化
 - *断食論争
 - *安息日論争
 - *パリサイ人の殺意
 - ⑧ガリラヤ湖畔での病人の癒しと悪霊の追い出し
- (2) そして、12使徒のひとりに選ばれた。

Ⅳ. 使徒として召される。

1. イエスは、徹夜で祈って、多くの弟子たちの中から12人を選択した。
 - (1) マルコ3章は、3つの目的を記している。
 - ①フルタイムでイエスのそばにいて、イエスに仕える。
 - ②イエスがメシアであることと神の国を宣言するために、派遣される。
 - ③彼らの宣言の信頼性を証明するために、悪霊を追い出す権威が与えられる。
2. ペテロは、最初に使徒として召された。
 - (1) 使徒集団の指導者であり、スポークスマンである。

①他の使徒たちもそれを認めていた。

(2) 常にイエスに従いたいと願っている。

①水の上を歩かせてくださいと言う願い

②自分に対して罪を犯している兄弟を、何度まで赦すべきかという質問

(3) 重要な局面では、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人がイエスのそばにいる。

3. ペテロは、最初にイエスをメシアと認めた使徒である。

「シモン・ペテロが答えて言った。『あなたは、生ける神の御子キリストです』」

(マタ 16:16)

(1) この告白の意味

①私たちはみんな、広い意味では「神の子」である。

②「御子」とは、意味が非常に限定された言葉である。

③ペテロは、イエスが人であり、神であることを認めた。

④これを神学的には、「受肉」という。

(2) 受肉について

①受肉を認めない信仰は、いかなる意味においても、キリスト教とは言えない。

②神でなければ救えない。人でなければ死ねない。

③癒しの源は神である。癒しが起こる領域は人である。

(3) イエスは、ペテロのこの信仰告白の上に教会を建てると約束された。

4. ペテロは、大失敗をした使徒である（イスカリオテのユダを除いて）。

(1) 彼はイエスを3度否んだ。

①彼もまた、普通の人である。

(2) マルコの福音書がこの出来事を最も詳しく記録している。

①マルコはローマにおいてペテロの通訳であったという。

②ペテロの証言が、マルコに影響を与えている。

5. ペテロは、イエスの復活を最初に目撃した使徒である。

(1) 女たちが最初であるが、使徒集団の中では、ペテロが最初である。

- (2) 最も激しくイエスを拒否した人が、最初にイエスの復活を目撃した。
①神の赦しと恵みの表れである。

V. 復活の目撃者となる。

1. 復活を認めない信仰は、いかなる意味においてもキリスト教ではない。
 - (1) 福音の3要素 (1 コリ 15 : 3~5)
 - ①使徒たちの言い伝え (伝統)
 - ②その中に、復活が含まれている。

2. ペテロには、「天の御国のかぎ」が与えられた (マタ 16 : 19)。
 - (1) 復活の目撃者として、「罪の赦しと死者の復活」を伝えるようになる。

3. 3種類の人たちのために、天の御国の扉を開いた。
 - (1) ユダヤ人のために
 - ①使 2 章 (ペンテコステのメッセージ)

 - (2) サマリヤ人のために
 - ①使 8 章 (ピリポの伝道のフォローアップ)

 - (3) 異邦人のために
 - ①使 10 章 (カイザリヤのコルネリオの救い)

4. これ以降、ペテロは表舞台からは姿を消す。
 - (1) 異邦人のための使徒パウロの時代に入る。
 - ①ペテロとパウロの間に、神学的矛盾はない。

結論：ペテロの人生から学ぶ

1. 求道者の皆さんへ
 - (1) イエスとの出会いが、人生を決める。
 - (2) 小さな始まりが、大きな結果につながる。

2. 靈的に幼いクリスチャンの皆さんへ
 - (1) パートタイムからフルタイムへの飛躍
 - (2) 私たちが信じている福音は、その他の教えよりも少し優れているというもので

はない。

(3) キリストの福音は、別次元の教えであり、唯一の救いの道である。

3. 霊的に成長したクリスチャンの皆さんへ

(1) 彼は、熱心さ(長所)と浅はかさ(短所)の両方を持っていた。

①彼の失敗のほとんどは、この性質によって説明できる。

(2) 神の恵みは、彼の短所を覆い、彼を作り変えた。

①神の恵みが、聖化のキーワードである。

(3) 彼は、2つの書簡を後世に遺した。

①これが、ペテロの完成形である。

②その一部を確認してみよう。

(4) 1ペテ1:3~9

「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいきます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならぬのですが、あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れるときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです」

(5) 私たちも、聖書的終末論から見た希望の告白をしようではないか。